

地域公共交通計画の進捗状況及び今後の予定について

計画の体系				実施スケジュール	R7取組状況及び今後の予定	
基本方針	目標	目標を達成するための施策	NO			施策の内容
基本方針① 多様な手段による効率的・効果的な地域公共交通ネットワークの再構築	目標① 階層的な地域公共交通ネットワークの形成による効率性の向上	施策1 地域公共交通サービスの維持確保及び改善	1	交通事業者との協議を進めながら、基幹交通の運行効率化により生まれたリソースを不便な路線に再配分することでサービスの利便性向上を図ります。また、基幹・幹線・支線交通相互の乗換が円滑に行えるダイヤの見直し等を進めます。	随時実施 運行改善は順次実施	◎本町花川線と路線バスの円滑な乗継を意識したダイヤの作成 ・本町花川線・厚田花川線運行に当たり、路線バス事業者と協議を行い乗継可能なダイヤを構築した。 ○【今後の予定】 ・中央バスとの継続的な協議 ・札幌石狩間の新たな幹線交通の検討
		施策2 基幹交通の確立に向けたバス路線再編及びBHLS導入の検討	2	北海道新幹線の「新函館北斗～札幌」間の開業により、札幌圏における交通状況の大きな変化が予測されており、本市においても経済・観光交流拡大に向けて北海道新幹線からの二次交通の充実が必要と考えており、現在整備を進めている札幌駅交通ターミナルへの接続についても札幌市をはじめとした関係機関との協議を行いながら検討します。	R6～R11：調査検討 R11～R12：実施	○【今後の予定】 ・北海道新幹線の進捗状況を把握しながら、札幌市をはじめ関係者との協議を進めていく。
		施策3 AIオンデマンド交通『いつモ』の本格運行	3	本運行の利便性・持続可能性・生産性を向上していくため、多様な関係者と『共創』を図りながら取組を推進していきます。	R6～R7：実証運行 R7～：本格運行	◎官民連携によるデマンド事業の実施 →ILOTでデマンド事業を運行する体制を構築した。 ○【今後の予定】 ・R8.4より通勤デマンド・本町花川線・厚田花川線・浜益デマンドの運行もILOTで行う
		施策4 バス交通空白地における移動手段の確保	4	旧石狩地区における生振地区以外のバス交通空白地については、現状タクシー以外の移動手段が無い状況であり、福祉輸送との連携可能性や、地域住民自らが運行の担い手となる厚田区の様なサポート交通の導入可能性について、地域住民との意見交換を行いながら検討します。	随時実施	○【今後の予定】 ・各地区の地域特性を踏まえた上で、地域住民及び交通事業者とも課題感を共有しながら、適切な交通手段について検討を進める。
	目標② 多様な交通手段の活用による持続可能な移動手段の確保	施策1 地域公共交通サービスの維持確保及び改善	5	高齢化社会の進展や障がい者の社会進出に対応するため、公共交通のバリアフリー化を推進します。	随時実施 運行改善は順次実施	◎バリアフリー車両の導入・活用 ・市内デマンドはバリアフリー車両（タクシー営業車）にて運行開始。 ○【今後の予定】 ・厚田花川線の車両もバリアフリー車両使用予定
			6	市民が安心して生活できる持続可能な地域公共交通サービスを提供するため、利用者ニーズを把握しながら利便性向上に努め、国や北海道による補助の活用も想定しながら、現行の路線バス・自家用有償旅客運送の維持・確保を図ります。	随時実施 運行改善は順次実施	◎路線バス廃止に伴う代替交通の構築 ・石狩線・厚田線・トーマン団地線廃止に伴い、新たな代替交通を構築し、地域の移動手段の確保を図りました。 ◎利便増進計画の策定
		施策3 AIオンデマンド交通『いつモ』の本格運行	7	路線バスに代わる石狩湾新港地域への効率的な新たな交通体系の確立及び市街地の周遊性向上を目的に現在実証運行を実施しているAIオンデマンド交通『いつモ』について、実証運行の結果を踏まえシステムや運行方法の改善を検討しながら早期の本格運行を目指します。	R6～R7：実証運行 R7～：本格運行	◎通勤デマンド ・実証スキームを変え、石狩市街地2か所から新港地域への送迎を実施 ◎市内デマンド ・R7よりタクシー営業車を活用した新たな事業スキームで本格運行 ◎本町花川線 ○・R7.12.15より運行開始 ◎浜益地域線・浜益厚田線 ・R7.10.1よりシステム化 【今後の予定】 ・R8.4.1より厚田花川線運行 ・R8.4.1より通勤デマンド・本町花川線本格運行
			8	令和6 年度（2024 年度）は引き続き実証運行を続け、令和7 年度（2025 年度）以降の本格運行を目指します。	R6～R7：実証運行 R7～：本格運行	◎通勤デマンド ・R 7 は事業スキームを変えて実証 ◎本町花川線 ○・R7.12.15より運行開始 【今後の予定】 ・R8.4.1より厚田花川線運行 ・R8.4.1より通勤デマンド・本町花川線本格運行
		施策4 バス交通空白地における移動手段の確保	9	本市において広域に存在するバス交通空白地に対して、多様な移動手段（タクシー、乗合自動車、スクールバス、福祉輸送等）を活用して移動手段の確保に努めます。	随時実施	◎市内の交通モード（ヒト・モノの移動）に関して、全庁的な調査を実施。 ○【今後の予定】 ・あつたライフサポートの会と厚田花川線との乗継手法等について検討を行う ・福祉事業者と事業の共同化等の可能性を検討
			10	浜益区については、現在乗合自動車（浜益厚田間・浜益滝川間）やスクールバス一般混乗により移動手段を確保している状況であり、浜厚線の路線バスとの接続性と区内移動の利便性向上、滝浜線の復路便の乗降場所改善など運行方法の改善を図りながら現在の移動手段の維持確保に努めます。見直しが実施された際には、地域住民や来訪者が理解しやすいパンフレット作成に努めます。	随時実施	◎デマンドシステム及び車両の導入 ・浜益地域線・浜益厚田線をシステム化し、アプリ・コールセンター両方から予約が可能な体制を構築（R7.10） ○・車両を新たに2台増やし、浜益厚田線・浜益地域線を分けて運行する体制を構築（R7.10） 【今後の予定】 ・地域のマンパワーを活用した持続可能な移動サービス事業構築について地域と検討を進める。
			11	厚田区については、道の駅「あいろーど厚田」以北や国道231 号沿線以外はバス交通空白地となっており、スクールバス一般混乗（発足線）やNPO 法人あつたライフサポートの会による施設や最寄りバス停への送迎により移動手段の確保がなされている状況であるため、運行方法の改善や持続可能な運行体制の確保を図りながら現在の移動手段の維持確保に努めます。	随時実施	◎厚田花川線の構築 ・厚田線・トーマン団地線廃止に伴い、代替交通として地域交通事業者が運行する厚田花川線の構築を行った。 ○【今後の予定】 ・地域のマンパワーを活用した持続可能な移動サービス事業構築について地域と検討を進める。
			12	生振地区については、現在AI オンデマンド交通『いつモ』実証運行の市内オンデマンドの対象エリアとしており、本格運行を目指すことでタクシー以外の新たな移動手段の確保を目指します。	随時実施	◎市内デマンドの本格稼働 ○・本格運行においても生振エリアを対象エリアとした。

地域公共交通計画の進捗状況及び今後の予定について

計画の体系				実施スケジュール	R7取組状況及び今後の予定
基本方針	目標	目標を達成するための施策	NO		
基本方針② 誰もが便利に利用出来るシームレスな利用環境の創出	目標③ 円滑に乗換・待合可能な交通結節点の創出	施策5 交通結節点の創出に向けた検討	13	R6～R8：調査検討 R8～R12：実施	◎交通結節点の創出（花川北地区） ・本町花川線運行に合わせ市庁舎正面玄関前にデマンド線の停留所設置。 ◎交通結節点の創出（花川南地区） ・複数の路線が輻輳する花川南5－3停車場に近接するラルズマート花川南店の駐車場を活用し、通勤デマンド及び本町花川線の停車スペースを設置（株式会社ラルズと駐車場利用の覚書締結）。 【今後の予定】 ・石狩庁舎前のバス停が点在していることから、停留所の集約に向けた検討を進める。
			14	R6～R8：調査検討 R8～R12：実施	◎企業との協力体制の構築 ・株式会社ラルズと包括連携協定を結び、交通に関して更なる協力体制を構築（R7.3）。 ・本町花川線運行に合わせて、石狩病院と駐車場利用に関する覚書を締結（R7.12）。 【今後の予定】 ○市内商業施設及び医療機関等とデマンド事業に関して協力体制の構築を推進。
			15	R6～R8：調査検討 R8～R12：実施	◎企業との協力体制の構築 ・市内商業施設及び医療機関とデマンド事業に関して協力体制を構築し、施設内に待合スペースの設置等の協力を得た。
	目標④ 利便性の高いダイヤ設定や運行情報発信の充実化	施策1 地域公共交通サービスの維持確保及び改善	16	随時実施 運行改善は順次実施	◎利用しやすい環境の整備 ・市内公共交通を取りまとめた冊子（公共交通まるわかりbook（紙媒体・デジタルbook））を作成。紙媒体の冊子は市内全戸に配布（デジタルbookはHPにて公開）（R8.3）
			17	R6～R11：調査検討 R11～R12：実施	- 中央バスとの継続的な協議
			18	R6～R7：実証運行 R7～：本格運行	◎サービスの拡大 ・市内デマンド事業エリアの見直しを行い、花川・樽川の幹線バスエリアから、「B&G海洋センター」「樽川調整区域」に行くことを可能にした（R7～）。
		施策5 交通結節点の創出に向けた検討	19	R6～R8：調査検討 R8～R12：実施	◎企業との協力体制の構築 ・株式会社ラルズと包括連携協定を結び、交通に関して更なる協力体制を構築（R7.3）。 ・本町花川線運行に合わせて、石狩病院と駐車場利用に関する覚書を締結（R7.12）。 ○【今後の予定】 市内商業施設及び医療機関等とデマンド事業に関して協力体制を構築。
			20	随時実施	◎石狩版MaaSの推進 ・デマンドシステムを国内ベンダーのシステムに変更。操作性の向上及びランニングコストの低減を図った（R6.12）。 ○・浜益地域線・浜益厚田線にデマンドシステム導入（R7.10）。 ・厚田花川線運行開始に併せて浜益厚田線と厚田花川線の乗継予約をワンタイムで行う仕組みを構築（R8.3）。
		施策6 デジタル技術を活用した公共交通に関する情報発信機能の強化	21	随時実施	- 交通結節点の環境整備と合わせて、検討を進めていく
			22	随時実施	◎中央バスとの情報連携 ・中央バスHPにて運行（遅延）情報をオンタイムで掲載するサービスを始めたことから、石狩市公式LINEとの情報連携を行った（R6～）。 ○【今後の予定】 ・デマンド交通の運休情報等をタイムリーに利用者に伝える仕組みの検討を進める

地域公共交通計画の進捗状況及び今後の予定について

計画の体系				実施スケジュール	R7取組状況及び今後の予定
基本方針	目標	目標を達成するための施策	NO		
基本方針③ 地域特性に応じた公共交通利用促進策の推進	目標⑤ 公共交通を利用する市民意識の醸成	施策6 デジタル技術を活用した公共交通に関する情報発信機能の強化	23	随時実施	◎デマンドシステムの機能の充実 ・デマンドシステムを国内ベンダーのシステムに変更。操作性の向上及びランニングコストの低減を図った（R6.12）。 ○ ・浜益地域線・浜益厚田線7にデマンドシステム導入（R7.10）。 ・厚田花川線運行開始に併せて浜益厚田線と厚田花川線の乗継予約をワンタイムで行う仕組みを構築（R8.3）。
		施策7 公共交通の利用促進に向けた取組の推進	24	随時実施	◎R7実績 ※代替交通に関する報告会・意見交換会及び乗り方体験会 ・報告会：5会場、延べ167名 ○ ・意見交換会：15会場、延べ316名 ・地域報告会：8会場、延べ271名 ・本町花川線「乗り方体験会」：2会場、延べ134名 ・厚田花川線「乗り方体験会」：8会場、延べ187名
			25	随時実施	【今後の予定】 利用促進のコンセプトを明確にして、ステークホルダーとなる事業者と協議を進める。
			26	随時実施	◎環境負荷低減の取組みの推進 ・環境所管と共同で職員の移動手段に対し公共交通等の利用やエコドライブを働きかけた。 ①いしかり断車離チャレンジ～2050年ゼロカーボンシティ実現に向けて～ 対象者：石狩市役所職員の内、自家用車により通勤している方 ○ 実施日：令和7年9月毎週金曜日（全4回） ②「ゼロカーボン×エコドライブ」コンテストへの参加 実施内容：本市と包括連携協定を締結している、あいおいニッセイ同和損害保険㈱主催のゼロカーボンイベントに参加したもの。 結果：5チーム（計17人） ※道内全体で516チーム（計2,054人）が参加
基本方針④ 地域公共交通の担い手確保に向けた取組の推進	目標⑥ 担い手確保による移動手段の維持確保	施策2 基幹交通の確立に向けたバス路線再編及びBHLS導入の検討	27	R6～R11：調査検討 R11～R12：実施	【今後の予定】 ・中央バスとの継続的な協議 ・札幌石狩間の新たな幹線交通の検討
		施策8 公共交通の担い手確保に向けた取組の推進	28	随時実施	◎地域おこし協力隊制度の活用（R7～） ・交通事業に従事する2名の地域おこし協力隊隊員を採用し、浜益地域線のドライバーとして活動してもらった。 ○ ◎運輸局・自衛隊共催合同就職相談会への参加（R7.11.29） ・退職予定自衛官の運転体験・合同就職相談会に市内交通事業者と参加 【今後の予定】 ・合同企業就職説明会等への参加及び企画
			29	随時実施	◎市内合同企業就職説明会への交通事業者の参加 ○ ・合同企業就職説明会への交通事業者の参加
			30	随時実施	【今後の予定】 各地区の地域特性を踏まえた上で、地域住民及び交通事業者とも課題感を共有しながら、適切な交通手段について検討を進める。
			31	随時実施	【今後の予定】 自動運転先進自治体にヒアリングを行いながら可能性を検討